



むかし てんぼうざん

ばい い じょう

昔の天保山は、今の4倍以上も高かった？



日本一低い山、天保山。今の標高は4.53mですが、江戸時代のころはその4倍以上、約20mの高さがありました。山の周囲は約200m、頂上からは淡路島や四国も見えました。



九条島に安治川がつくられた工事のあとも、川の上流からはあいかわらず土砂が運ばれてきました。安治川の川底にも土砂がつもり、たびたび川があふれて水害が起きました。そこで、「天保山」の名前の由来にもなっている天保2(1831)年から2年間、洪水を防ぐために、また、大きな船を大阪に入りやすくするために、安治川の川底につもった土砂をとりのぞく大がかりな川ざらえがおこなわれました。

工事には、幕府に命じられてまわりの町や市場から多くの人が参加。つらい仕事の川ざらえですが、「やるなら楽しく」と町ごとにおそろいの衣装をつくったり、太鼓やお囃子で



1831(天保2)年
天保の川ざらえ

天保山の高さのうつり変わり



1832(天保3)年
天保山がつくられる
高さ約20m!

1864(元治元)年
外国船への警備のため、天保山が削られ、砲台がつくられる

この後も、地盤沈下などにより、天保山の高さはどんどん低くなっていきました。

1888(明治21)年
天保山遊園開園(1897年閉園)

1921(大正10)年
標高7.2m

1911(明治44)年
天保山に二等三角点が置かれる

地図をつくるための基準点。今も天保山公園にあるので探してみよう!



1958(昭和33)年
天保山公園がつくられる

1977(昭和52)年
標高4.7m

1996(平成8)年
地形図に復活

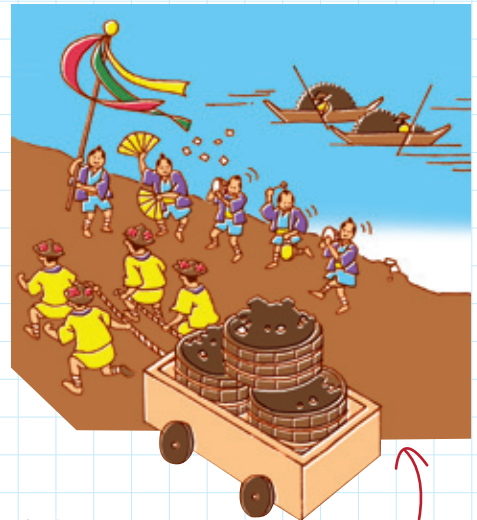
1993(平成5)年
天保山が地形図から消される

4.7m 4.53m

盛りあげたり、お祭り気分で作業がおこなわれたそうです(楽しみすぎて、幕府にしかられたとか(笑))。このときの川底の土砂を、安治川の河口に積み上げてつくられたのが天保山です。船から見える目印になったので「目印山」とも呼ばれました。

花見や雪見、舟遊びなどでにぎわった天保山。天保山公園入口近くは、陶板に写した、この浮世絵があるよ。登山のときに探してみよう!

浪花天保山風景(歌川貞升) 大阪城天守閣蔵



川底をさらった土砂を船に積んで岸に上げると、陸にいる人たちが、かごや桶、車に積んで運びました。たいへんな重労働でした。

松や桜が植えられ、茶店が並び、「浪花の新名所」としてにぎわった江戸時代の天保山。昔も大阪を代表するレジャーの地でした。

調べてみよう!

日本に2カ所、「天保山町」という地名があるらしい?



てんぼうざん

おおさか し

天保山の近くに、大阪市のマークのひみつがある？



大阪市の市章(市のマーク)  は「みおつくし」といいます。船に通りやすい場所を知らせる目印で、天保山の近くには「サバの尾」と呼ばれる「みおつくし」がありました。この形をもとに市章がつくられました。



大阪が商業のまちとして発展しているのは、今も昔も大阪に港があるおかげです。そこで、1894(明治27)年、船に関係のある「みおつくし」が市章の形に選ばれました。

江戸時代の大阪湾や大阪の川には、通りやすい場所を船に知らせるため、いろいろな形の「みおつくし」が立てられていました。船が通りやすい深い水の中に立てるため、全体の長さは10mぐらいあったそうです。

天保山の近くの海は、大阪湾から川をのぼって大阪のまちへ入っていく、交通の重要な場所で、海と川の境に立てられる第一番の「みおつくし」がありました。魚の尾のような形をしていたことから「サバの尾」とも呼ばれ、大阪の見どころのひとつになっていたそうです。

大阪市の市章の形は、天保山の近くにあったこの第一番の「みおつくし」をもとにつくられました。



江戸時代の「みおつくし」と天保山。

浪花百景「天保山」(南粋亭芳雪) 大阪 城 天守閣蔵

1831 (天保 2) 年
天保の川ざらえ

1832 (天保 3) 年
天保山がつくられる

1864 (元治元) 年
外国船への警備のため、天保山
が削られ、砲台がつくられる

1888 (明治 21) 年
天保山遊園開園
(1897 年閉園)

1911 (明治 44) 年
天保山に二等三角点が
置かれる

1958 (昭和 33) 年
天保山公園が
つくられる

1996 (平成 8) 年
地形図に復活

1993 (平成 5) 年
天保山が地形図
から消される

●「天下の台所」大阪の目印、天保山

江戸時代、「天下の台所」と呼ばれた大阪は日本でいちばんの流通と商業のまちで、お酒や昆布など全国から商品が集まってきました。また、江戸の暮らしをささえるため、大阪から「菱垣廻船」などの大型の船でさまざまな商品を運びました。江戸は大阪の一番のお客さんで、大阪からの商品は「下りもの」と呼ばれ、質のよい商品として評判だったようです。



「天下の台所」大阪をめざす船と、大阪から出発する船、多くの船が天保山沖を行き来し、天保山はそうした船の目印でした。



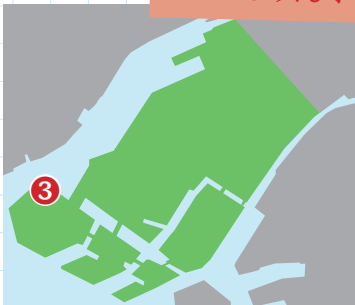
江戸時代の終わり、天保山沖にとつぜんロシアの軍艦がやってきたのをきっかけに、1864 (元治元) 年、天保山を削って砲台が置かれます。大阪を代表するレジャーの地だった天保山は、一時期、天保山沖を警備する場所になりました。

天保山公園にある「天保山跡」の碑。山頂の二等三角点や、p.12・13 の浮世絵の陶板も探してみてね。

🔍 調べてみよう！①

天保山には昔、灯台があったらしい？

たんけんポイント



③ 天保山公園

地下鉄中央線「大阪港」駅
②出口より 約 450m

🔍 調べてみよう！②

天保山が警備の場所だったころに使われていたあるものが、今のおおさかしょうこうえんの大坂城公園にあるらしい？